

## 誤植の訂正

本書につきまして、下記のとおり訂正がございます。ご指摘くださいました東京大学大学院の藤本丈史様、およびエセックス大学の津田俊祐様（ご所属はいずれも2026年5月現在）に、深く御礼申し上げます。読者の皆様ならびに関係各位にお詫び申し上げますとともに、ここに訂正いたします。

## 第2章

[p.80] 2段落目: 2行目の「実際の調査では」が重複して出現しているため、二つ目を削除。

## 第3章

[p.136] 5行目: 「DALYを1単位減らす」を「DALYを1単位増やす」に修正。

[p.138] 脚注53: 2番目の式の真ん中部分

$$\left[ \int_{-\infty}^c \phi(z) dz \right]'$$

を以下に修正。

$$\frac{d}{dc} \left[ \int_{-\infty}^c \phi(z) dz \right]$$

[p.142] 一番下の式: 「 $y = 1[y_i^* > 0]$ 」を、「 $y_i = 1[y_i^* > 0]$ 」に修正（ $y$ に添字 $i$ をつける）。

[p.158] 最初の行: 「一致推定量 $\hat{\gamma}_1$ 求められる」を、「一致推定量 $\hat{\gamma}_1$ が求められる」に修正（「が」を追加）。

[p.163] 8行目: 『「平均処置効果」 $\tau_{ATT}$ 』を『「平均処置効果」 $\tau_{ATE}$ 』に修正。

[p.182] 5行目: 「 $y_{ij}$ 」を「 $y_{ig}$ 」に修正。

[p.185] 脚注107: 下から3行目の「 $Var(\alpha_j)$ 」を「 $Var(\alpha_g)$ 」に修正。

[p.169] 脚注89: 式の一番最後の「 $ATT_{a,2} + \Delta Y_{a,2}^0 - \Delta Y_{a,2}^0$ 」を「 $ATT_{a,2} + \Delta Y_{a,2}^0 - \Delta Y_{b,2}^0$ 」に修正（最後の項が $\Delta Y_{a,2}^0$ でなく $\Delta Y_{b,2}^0$ ）。

[p.172] 上から6行目: 「ウェイト $W_{3,t}$ 」を「ウェイト $W_{a,3}$ 」に修正。

[p.179] 図3-20(B):  $t=3$ の垂直線上の「 $Y_{b,3}^{CF}$ 」を「 $Y_{a,3}^{CF}$ 」に修正。

## 第4章

[p204] 10行目:  $\ln wage$  の式中の、「 $\beta_2 ex + \beta_3 ex^2$ 」を「 $\beta_{E1} exp + \beta_{E2} exp^2$ 」に修正。

[p212] 1行目: 「点数が取れば」を「点数が取れば」に修正。

[p215] 本文下から2行目: 「 $E(y_{0i}|w_i = c)$ 」を  $E(y_{0i}|r_i = c)$  に修正 (「 $w_i$ 」を「 $r_i$ 」に)。

[p235] (4-24) 式の4行前: 「教育年数や制御変数  $w_i S_i$  も含まれるが」を「教育年数  $S_i$  や制御変数  $w_i$  も含まれるが」に修正。

[p235] 下から4行目: 式中の右辺第二項の  $E(0 \cdot \epsilon_i | S_i, s_i = 1)$  を  $E(0 \cdot \epsilon_i | S_i, s_i = 0)$  に修正 (「 $s_i = 1$ 」を「 $s_i = 0$ 」に)。

[p254] 第7節最初の段落の9行目: 「効果的を疑う」を「効果を疑う」に修正。

## 第5章

[p266] 脚注6: 最後の式の真ん中の

$$\frac{\ln(y + \Delta y) - \ln y}{\ln(x + \Delta x) - \tau \ln x}$$

の分母「 $\ln(x + \Delta x) - \tau \ln x$ 」を、「 $\ln(x + \Delta x) - \ln x$ 」に修正 ( $\tau$ が不要)。

[p267] 脚注8: 式の右辺の「 $\frac{p}{w}$ 」を「 $\frac{w}{p}$ 」に修正。

[p273] 脚注17: 最後から2行目の「 $Y^{1-\sigma_i}$ 」を「 $Y^{1-\sigma}$ 」に修正 ( $\sigma_i$ ではなく $\sigma$ )。

[p283] 最後から2行目: 「 $\epsilon_i$ 」を「 $\nu_i$ 」に修正。

[p285] 脚注32: 下から2行目の「大きいというPCT」を、「大きいかというPCT」に修正。

[p285] 本文下から7行目: 「高いため」を「高くなるため」に修正。

[p312] 6行目: 「その家計の来期以降の大きい家計に対しては、現在パレートウェイト比が小さくなり」を、「今期の現在パレートウェイト比に基づいた消費水準が保障されるものの、来期以降の現在パレートウェイト比は小さくなり」に修正。

[p330] 脚注72: 「補論 A.5.6」を「補論 A.5.7」に修正。

## 第6章

[p336] 本文下から7行目: 「貯蓄や借金取り崩しにより」を「貯蓄取り崩しや借金により」に修正。

[p370] 本文下から4行目: 「高くならざるを得ない」を「低くならざるを得ない」に修正。

[p386] (16.49) 式:  $\bar{w}_{it}$  を  $\bar{w}_i$ 、 $\bar{\epsilon}_{it}$  を  $\bar{\epsilon}_i$  に修正 (添字の  $t$  が不要)。

[p387] 1行目: 「(前期からの  $x_i$  の変化)」を「(前期からの  $x_{it}$  の変化)」に修正 (添え字に  $t$  を追加)。

[p394] 脚注 61 の 5 行目: 「現在バイアスのある家計が有意に増加した」を「現在バイアスのある家計の投資額が有意に増加した」に修正。

[p398] 本文下から 1 行目: 「第 1 期に実際に貯蓄するか計画する」を「第 1 期の貯蓄行動について計画する」に修正。

[p401] 下から 9 行目: 「単純タイプや」を「単純タイプは」に修正。

## 第 7 章

[p422] 本文下から 2 行目: 「 $A_{t_t}$  で割れば」を「 $A_t L_t$  で割れば」に修正。

[p422] 一番下の式: 最初の項の分母「 $A_{t+1t+1}$ 」を「 $A_{t+1} L_{t+1}$ 」に修正。

[p448] 「(7.22)」の式番号を、「 $V_u^{MPS}(1) =$ 」の式につけるのではなく、一つ上の「 $V^{MPS}(1) =$ 」の式につける。

## 参考文献

- 以下を追加

速水佑次郎 (1995) 『開発経済学—諸国民の貧困と富』 創文社